

製品名: PMS1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16311**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	105kDa

抗原情報

遺伝子名	PMS1
別名	PMS1; PMSL1; PMS1 protein homolog 1; DNA mismatch repair protein PMS1
遺伝子 ID	5378.0
SwissProt ID	P54277
免疫原	抗血清はヒト PMS1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 441-490

背景

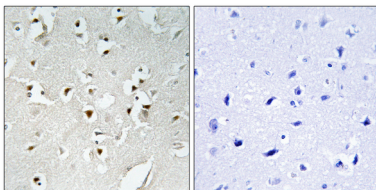
この遺伝子は、DNA ミスマッチ修復タンパク質 mutL/hexB ファミリーに属するタンパク質をコードしています。このタンパク質は DNA ミスマッチの修復に関与すると考えられており、既知の DNA ミスマッチ修復タンパク質である MLH1 とヘテロ二量体を形成し

ます。この遺伝子の変異は、単独で、または HNPCC 表現型に關与する他の遺伝子の変異と組み合わせ、遺伝性非ポリポーシス大腸癌 3 型 (HNPCC3) を引き起こします。この表現型はリンチ症候群としても知られています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患: PMS1 の欠陥は、遺伝性非ポリポーシス大腸癌 3 型 (HNPCC3) の原因です[MIM:600258]。複数の遺伝子座の変異は、単独で、または組み合わせ、HNPCC 表現型 (リンチ症候群とも呼ばれます) の形成に關与する可能性があります。臨床的に認識されている HNPCC の家系のほとんどは、MLH1 遺伝子または MSH2 遺伝子のいずれかに変異が見られます。HNPCC は常染色体優性遺伝疾患で、がん感受性の顕著な増加と關連しています。早期発症の大腸がん (CRC) および消化管、泌尿器、女性生殖器の結腸外がんに対する家族性素因が特徴です。HNPCC は西洋世界で最も一般的な遺伝性大腸がんの形態であり、すべての結腸がんの 15% を占めると報告されています。HNPCC のがんは、腺腫と呼ばれる良性の腫瘍性ポリープから発生します。臨床的には、HNPCC は 2 つのサブグループに分けられることがよくあります。タイプ I: 大腸がんに対する遺伝的素因、発症年齢の若年化、および近位結腸に認められるがん。タイプ II: 患者は、大腸に加えて、子宮、卵巣、乳房、胃、小腸、皮膚、喉頭などの特定の組織におけるがん発生リスクが高くなります。古典的 HNPCC の診断は、アムステルダム基準に基づきます。アムステルダム基準では、大腸がんに罹患した親族が 3 人以上 (うち 1 人は他の 2 人の直系親族) であること、2 世代以上罹患していること、50 歳未満で発症した大腸がんが 1 件以上あること、遺伝性ポリポーシス症候群が除外されていることが求められます。「HNPCC 疑い」または「不完全 HNPCC」という用語は、アムステルダム基準を満たさない、または部分的にしか満たさない家系において、大腸がんの遺伝的根拠が強く疑われる場合に用いられます。機能: DNA ミスマッチの修復に關与していると考えられます。類似性: DNA ミスマッチ修復 mutL/hexB ファミリーに属します。類似性: HMG ボックス DNA 結合ドメインを 1 つ含みます。、

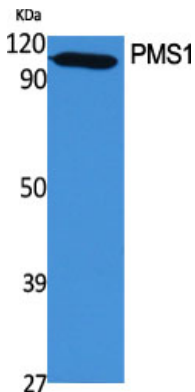
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達、DNA/RNA、DNA 損傷と修復、ミスマッチ修復、シグナル伝達、抗体、新製品、組み換え

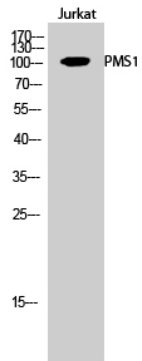
画像データ



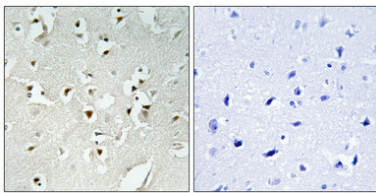
PMS1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



PMS1 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウエスタン ブロット分析。



PMS1 ポリクローナル抗体を使用した Jurkat 細胞のウェスタン ブロット分析。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。